
母親ばなれ

立木ノエミ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

母親ばなれ

【Nコード】

N1795D

【作者名】

立木ノエミ

【あらすじ】

夫は明らかに私を避けている。病弱な私を息子を奪い取り、他の女と結婚しようと思っているのだ。そんな事絶対許さない。息子だけは手放さない……ショートショートです。

夫は明らかに私を避けている。近頃では話しかけても口々に返事もしてくれない。

無理もない。私は長い間病床についていて、家事はおろか夫と夜を共にすることも出来ない。私に代わって夫は仕事のみならず家事と子育てをしてくれている。日がな一日横になっただけで役にも立たない妻を疎ましく感じるのも当然だろう。

「それじゃあ、行ってくるよ」

「行つてらっしゃい」

毎朝、少ない目のご飯とかぼちゃの煮つけなどといったおかずを目の前に置くと夫は出勤する。食欲はあまりない。それでも少しでも箸をつけるのだが味気ない。そのまま箸を置いて横になる。

「お母さん」

どのくらい眠っていたのだろう。気がつくと幼稚園から戻ってきた息子が私を覗き込んでいた。帰ってきたばかりなのだろう、黄色い帽子をかぶったままだ。私はそつと帽子を脱がせてやる。

「あらあら、ちゃんとお手では洗ったのかしら」

「洗ったよ」

「本当かな。お母さんに見せてご覧なさい」

息子の爪は砂遊びで真っ黒になっている。私は息子の可愛い嘘に思わず笑みがこぼれる。

「まあ汚い。バイキンが入っちゃうわよ」

息子はバツが悪そうな顔をして洗面所へ向かう。そうして戻ってきた息子に絵本を読んでやったり、一緒にお絵かきをして遊ぶ。この子だけが私の生きがいだ。

「お母さん、今度ばく、学芸会で浦島太郎の役するんだよ」

「まあ、主役なのね。すごいわね」

「お母さん、観にきてくれる」

「そうね、お父さんに聞いてみましようね」

そう言った途端、息子が悲しそうにうつむいた。

「どうしたの」

私は息子の顔を覗き込んだ。

「お父さんにお母さんも来てくれるか聞いたら怒られた」

「どうして」

「もういい加減、お母さんから離れなさいって」

「まあ」

私は頭に來た。いくら私の体調をおもんばかったのことはいえ、まだ小さい息子に母親離れしろだなんて。私のたった一つの生きがいである息子を私から引き離そうとでもいうつもりだろうか。そんなの嫌だ。息子だけは決して離さない。

「ただいま」

「あなた、一体どういうつもり」

仕事から帰ってきて部屋を覗いた夫を私は問い詰めた。夫は無言で私の前でうなだれた。

「分かってるわよ。他の女と結婚するつもりなんでしょう」

やや間があつて、夫は重い口を開いた。

「分かってくれ。あいつには母親が必要なんだ」

「私に母親の資格はないっていうの……」

確かに私は料理も洗濯も、何も何も、息子のためにしてやれない。けどそばにいたい。それすらも私には許されないの……自分自身が情けなくて悔しくて涙が溢れた。

「お父さん、お母さんをいじめないでっ」

息子が部屋へ入ってきた。そうして「お母さん泣かないで、泣かないで」と言いながら私に囁りついてきた。

「いい加減にしなさいっ」

夫は乱暴に息子を私から引き離した。私は息子を取り替えそうと手を伸ばした。

しかしすんでのところで、私の手は止まった。

「お母さんはもう死んだんだ」

……え……。

「死んでないよ。そこにいるよ。そこで泣いてるよ」

息子がしゃくりあげながら指をさす。

「いいかい、信じたくないのは分かる。でももうお母さんは戻ってこないんだ」

息子の指の先には、私の……位牌が……。

私は、幽霊……。

それとも、息子の妄想……。

幻、なのか……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1795d/>

母親ばなれ

2010年10月16日13時34分発行